

社説

それでも地域経済は生きている

しても、直接的なテコ入れには結びつかず、オミクロン感染拡大で再び後退を余儀なくされている。十日町の地域経済テコ入れは続くが、津南町が昨夏から取

り組む飲食店・小売業対象の「消費拡大キャンペーン事業」が直接的な経済効果を上げている。

今年2月末までの限定事業だ。提供価格の50%、つまり半分の助成率。飲食店提供メニューの5千円コースが半額2500円で飲食できるとなれば、利用

国の新コロナ臨時交付金が財源でこれまで77事業者が申請。広告宣伝含む補助事業費5660万円余だが、各事業所は独自アイデアや県民割、クーポン発行などを組み合わせ、さらに直接的な経済効果を生み出している。試算では1億円を超え、利用期限の2月末までにはさら

市中感染の警戒が必要な新型コロナウイルス変異ウイルスの感染拡大は、再び地域経済を直撃しつつあり、「少し明かりが見えた」地域経済界はまたも、どうしようもない外因に晒されている。とはいえ、地域経済は生きている。「冬は充電期間」が、ここ雪国である。「知恵と情報」の蓄積が、次につながり、動き出すその時の準備期間だ。

いま市町村は新年度予算編成の最終段階に入り、市町村長のセンスが問われる段階でもある。「査定」という言葉は、なにも削るだけの意味ではない。「この事業は必要」、その行政センス、キラリと光る新年度予算を見たい。

して作品を作り続けており、細々ながらも根付いている。

田邊会長は「新型コロナウイルスの心配はぬぐい切れないうちが、なんとか30周年記念展を開きたい。会ではこれから新たな気持ちで新しいことに挑戦しながら、藍染めと絞りを楽しんでいる」と話している。

人生の最後まで安心して過ごすことができる地域社会の実現に向け活動するNPO法人十のろ(とろろ)が先般、十日町市医療福祉総合センターで「成年後見養成研修」を開催。主旨に賛同した福祉関係者や市民21人が集まり講義を受けた。写真。

見専門員と共に活動する「十のろ法人後見支援員」を養成しようと、新潟県でうきん福祉財団の助成を受けて研修を実施した。社会福祉士の林正海さんなどが講義し、研修はオンラインで行う。十のろの高は「受講者をサポートする」

シリーズ連載

明日へ

あした

開くことができれば」と藍を使用している。絞りを縫い、白布を針で縫い、絞り、藍で染める。筒巻き絞り、棒絞り、巻き上げ絞り、縫い絞り、折り絞りなど多彩な絞り方がある。また染めと洗いを繰り返すことで薄い青から濃い深い藍色に、それらの技術が幾重にも重なり合っ

ていく。絞りは縫い、白布を針で縫い、絞り、藍で染める。筒巻き絞り、棒絞り、巻き上げ絞り、縫い絞り、折り絞りなど多彩な絞り方がある。また染めと洗いを繰り返すことで薄い青から濃い深い藍色に、それらの技術が幾重にも重なり合っ

ていく。絞りは縫い、白布を針で縫い、絞り、藍で染める。筒巻き絞り、棒絞り、巻き上げ絞り、縫い絞り、折り絞りなど多彩な絞り方がある。また染めと洗いを繰り返すことで薄い青から濃い深い藍色に、それらの技術が幾重にも重なり合っ

ていく。絞りは縫い、白布を針で縫い、絞り、藍で染める。筒巻き絞り、棒絞り、巻き上げ絞り、縫い絞り、折り絞りなど多彩な絞り方がある。また染めと洗いを繰り返すことで薄い青から濃い深い藍色に、それらの技術が幾重にも重なり合っ

ていく。絞りは縫い、白布を針で縫い、絞り、藍で染める。筒巻き絞り、棒絞り、巻き上げ絞り、縫い絞り、折り絞りなど多彩な絞り方がある。また染めと洗いを繰り返すことで薄い青から濃い深い藍色に、それらの技術が幾重にも重なり合っ

藍染めの魅力、若者にPR

絞り藍遊夢

2年越しの30周年記念展を

きものの町・十日町の織物産業が衰退しているなか、少しでも織物関連の技術を高めたいと取り組んでいるグループがある。『絞り藍遊夢』(田邊康則会長、7人)だ。しかし、メンバーは70代と高齢化。「何とか若い人に伝えることができれば」と、地域のイベント会場などで作品を展示・販売しアピールしている。

思いはなかなか伝わらないが、「織物のまちで手づくりの技をなくしたくない。継続こそ力なり」と若者の参加を夢に活動に取り組んでいる。

「青は藍より出でて藍より青し」。藍とは染料の技術を高めていきたいと取り組んでいる。絞りを縫い、白布を針で縫い、絞り、藍で染める。筒巻き絞り、棒絞り、巻き上げ絞り、縫い絞り、折り絞りなど多彩な絞り方がある。また染めと洗いを繰り返すことで薄い青から濃い深い藍色に、それらの技術が幾重にも重なり合っ



「若い人、待ってるよ」と参加を呼びかける藍遊夢のメンバー

「青は藍より出でて藍より青し」。藍とは染料の技術を高めていきたいと取り組んでいる。絞りを縫い、白布を針で縫い、絞り、藍で染める。筒巻き絞り、棒絞り、巻き上げ絞り、縫い絞り、折り絞りなど多彩な絞り方がある。また染めと洗いを繰り返すことで薄い青から濃い深い藍色に、それらの技術が幾重にも重なり合っ



会員が制作した藍染めの作品を展示(めっかめっか展で)

表現は無限だ。時には思い描いた柄とは全く違ったものができ、それが想像以上によかったり、反対にがっかりすることもある。「もうちょっとこうなっていれば、と思う方が多いが、まあそれが楽しいところ」とメンバーたち。

最近では、藍が新型コロナウイルスの増殖を阻害するという効果を大学の研究チームが発表、改めて藍の染め物が注目されていく。



「真っ赤なトマト鍋」が評判だ(23日、さかえ倶楽部スキー場で)

評判「真っ赤なトマト鍋」

さかえ倶楽部スキー場

雪の洞で貸切提供

鍋をつつき楽しむ時間を提供。土日祭日限定で完全予約制だが、22、23日はさつそく予約が入るなど関心を集めている。

○10年余前、特産の栄村トマトジュース使用の「トマトつけ麺」を開発、人気のグルメ食にひとつとして定着。今回のトマト鍋も栄村トマトジュ

特別職の報酬。十日町市長報酬(25日、月額報酬)

市長報酬(25日、月額報酬)